

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立北筑高等学校

自己評価						学校関係者評価			
学校運営計画(4月)					評価(総合)	評価(総合)	自己評価は		
学校運営方針		「現代に生きる 逞しい人間の育成」-健やかに 自律 協力して 創造- 自ら課題を発見(設定)し、他と協働して、人から指図されなくても、その解決に計画的に取り組む(主体的)若人を育成する。			A	A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
昨年度の成果と課題		今年度重点目標	具体的目標						
昭和53年の開校以来、本校では、「現代に生きる逞しい人間の育成」を学校教育目標として掲げ、学校生活の様々な場面において、生徒と教師との信頼関係に基づく最後まで諦めさせない粘り強い指導と厳しい指導の実践により、生徒に「北筑生」としての自信と誇りを育み、希望進路を実現できる学校として、1万5千を超える卒業生を社会に輩出してきた。創立50周年に向け、これまで築き上げてきた「鍛える学校 北筑」としての歴史と伝統を継承し、生徒、保護者、そして地域社会から信頼される学校づくりを推進する。そして、複雑で予見困難な時代だからこそ、時代の変化を前向きに受け止め、自分や社会の在り方を見つめながら、持続可能な社会の創り手として、自ら課題を設定し、他と協働して、その解決に計画的に取り組む人材育成に努める。		1 北筑高校の原点を見つめ、新時代の到来の中で「本校のよき学校文化」を継承する。	①北筑高校の原点は「鍛える学校」であること ②「本校のよき学校文化」とは日常の高校生活全般を通じて生徒に望ましい人格形成が図られ、社会に貢献できる人材となる為の基礎力が育まれていること ③継承は「意図的な取り組み」が必要不可欠であること ④社会に貢献できる人材の育成のために、生徒の進路実現を図ることが本校の最大のミッションである						
		2 中学生やその保護者、そして本校に勤務する職員に信頼され、選ばれる学校であり続ける努力を職員一丸となって行う。	①他校(特に私立高校)の最大のライバル校としての存在感や存在意義を高める ②学習指導要領の改訂、ICT教育の普及、コロナ禍などの影響で中学生や保護者の意識や考え方が大きく変化しており、現状を知り、それに意図的に対応することが必要 ③信頼は「実績」と「情報共有」から生まれること ④生徒や職員の心身の健康を犠牲にして成立する成果や幸福はあり得ないこと						
		評価項目	具体的目標	具体的方策				評価(3月)	次年度の主な課題
		教務領域課	教育指導班	新しい成績評価法に基づいて適切な評価を行い、生徒の学習状況改善に役立てる	校務支援システムへの対応を複数名で情報・技術を共有しながら進めていく。 各教科で、生徒の学習改善に効果的な、教科の独自性を生かした評価方法を工夫・研究し、教科で共有する。	A B	A	新しい評価規準の導入で各教科の試行錯誤が続いている。次年度は今年度の反省を生かし、より生徒の学力を適切に評価できる評価方法の研究を各教科に促していきたい。生徒の自宅学習の充実について有効な手立てがとれていないので、次年度は充実するよう重点的に取り組みたい。	
家庭学習について、生徒が主体的に取り組むよう各教科の工夫を促す。	モニターシートで家庭学習時間を可視化し、各自の課題に計画的に取り組んでいるかをふりかえらせる指導を充実させる。 成績優秀者の学習スタイルの傾向を把握し、次年度以降に「北筑モデル」として継承していく。			B C					
図書・文化班	図書館利用の促進		教員・生徒のリクエストを取り入れながら、蔵書を充実させる。 新刊案内や図書館報を発行し、生徒の図書館利用を促す。 教科や小論文に関する図書を充実させ、学習面での利用を促す。	A B A	A	図書館利用を促進するため、先生方に授業や総探で活用していただくよう、定期的に呼びかけを行っていきたい。ミニビブリオバトルに関しては、電子書籍による読書が増加しているため、実際に本を持参する現在の方法を変更し、さらに充実したものになるよう改善する。芸術鑑賞に関しては、実施場所、内容等を十分に検討し、生徒の心に残る演目を実施できるよう計画する。			
			図書委員会による読書活動の推進	図書委員の働きかけにより積極的な図書館利用を促し、読書を習慣化させる。 読書週間、ミニビブリオバトルを実施し、生徒に読書の楽しみを実感させる。 図書委員や職員からのお薦めの本を紹介し、読書への興味・関心を持たせる。			A A B		
	企画・広報班			学校行事の円滑な実施			学校行事の円滑実施に向け、各分掌間の調整を早目に行う。 わかりやすい会議資料や文書の作成に努め、記録も確実に行う。 福利厚生に関することを事務と連携しながら推進する。	A A B	A
PTA・同窓会との連携強化			PTA役員との連携を深め、委員会活動の活性化に努める。 PTA役員会、理事会、総会等の準備を確実に行う。 同窓会役員との連絡を密にとり、連携を深める。		A A B				
			教育活動の積極的な広報	本校の教育活動に関する内容を発信し、本校への理解、信頼を深める。 ホームページを効果的に利用し、適時、本校の教育活動を広報する。 生徒募集につながる学校説明会や体験入学の企画運営に努める。	A A A				
生徒指導領域課				生徒指導班	挨拶や時間厳守など、規範意識向上について自ら考え行動できるようにする	本校の良き伝統を引き継げるように、自ら考え身だしなみを整備する。 交通社会の一員として道路交通法を守り、日頃からの声かけを行い交通安全意識向上を図る。	C A	A	
	アンケートの実施や面談週間を利用し、生徒が相談しやすい職員集団を醸成する		アンケート実施後の迅速な聴き取りを行い、生徒が安心して相談できるように、日頃からの声かけや生徒の動態を把握する。 教職員で生徒情報やHR・部活動での人間関係を把握できるように		B A				
	保健・安全班		感染症予防を生活の一部として捉え、自らの健康を日常的に管理できる生徒を育成する	日常生活全般でマスク着用や手指消毒を行うなど、エチケットやマナーなど周囲に配慮した行動を習慣付ける。 月1回の保健便り発行など、保健委員会の啓発活動を通じて生徒一人一人が健康を考えたい行動選択ができるようにする。	A C	B	各自が行う感染対策は定着したが、今後は熱中症やインフルエンザなどの予防対策も併せて、安心して学校生活を送ることが出来るように更なる徹底ときめ細かな配慮が必要と考える。また、整美委員会の活動が滞ってしまったので、次年度に向けて主体的に活動できるように、事前準備と計画を行い、活動内容を充実させる。		
				清掃活動や環境整備を徹底し、来校者に喜ばれる学校美化を目指す	清掃活動は時間を遵守し、全職員・全生徒で責任と使命感を持って担当区域を整備する。 整美委員会の活動を通じ、学校行事の前後で花壇の整美など校内美化に務める。			B C	
			特別支援班	生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、適切な指導及び必要な支援を行う	生徒の特性や配慮事項について情報共有・共通理解を図る(生徒情報交換会の実施と有効活用)。 合理配慮に関する理解・手立てについて、専門家から指導助言を受けることができる機会を設ける(職員研修等の実施)。 不登校傾向生徒の早期発見に努め、SCと連携した心のケアとサポートを行う。			A C A	B
		項目ごとの評価			学校関係者評価委員会からの意見				
A	○時代に即した評価/指導法の研究/実践が行われている。								
A	○図書館の貸し出し冊数の増加、芸術鑑賞が全校で行われていること。次年度からの計画変更も含め時代に即した計画が図られている。								
A	○複数回の学校説明会や学校ホームページなど積極的な学校広報が行われ、志願者数の大幅な増加につながっている。								
A	○他校に先駆け、時代に即した生徒指導規約の改定を行いながらも、学校の伝統や教育目標の継続に向け、取り組んでいる。								
A	○新型コロナウイルス感染症拡大防止は学校だけの問題ではなく、社会全体の問題である。家庭や地域と連携しながら、対策を講じていただきたい。								
A	○教育的配慮を必要な生徒に対して組織的に取り組んでいると拝察される。								

進路指導領域課	キャリア教育班	第一希望進路実現に向けた学力養成のための指導の確立	国公立大学100名以上、難関大学5名以上の合格を目標に、スタディーワークショップなどの課外・補講を実施し、入試に対応できる学力を養成する。	B	A	A	スタディーワークショップなどの課外では外部講師を活用しながら学力育成を図ったが、企画の意図の説明や募集方法などを改善していく必要がある。また総探の活動内容についても企業や大学等外部との連携など多岐にわたるため、分掌の組織についても見直していきたい。	A	○予備校や出版社など外部講師を活用することで、教員の働き方改革と進学実績に結びついていると感じる。
		主体的に進路を切り拓く姿勢・能力の育成	各教科と連携して、外部模試の結果についての評価・反省、および次に向けての事前指導・事後指導を充実させる。	A					
	人権教育班	福岡県人権推進プランに基づいた全教科全領域での人権教育推進体制の構築	校内での人権特設授業で同和問題も取り上げ、教職員自身の人権感覚を向上させる。	A					
			県教委の実施する人権研修会に学年毎に計画的に参加する。	A					
指導力向上領域課	研修班	授業改善の取り組み	「授業を通して生徒の心に火をつける」という目標達成の為に、常時授業を開放して授業参観を行い互いにスキルアップを図ると共に、ICTを効果的に活用した授業の在り方についての研修の充実を図る。	B	A	A	タブレット1人1台が本格的に導入されるので、日常的に効果的な活用ができるように、情報提供や研修の機会を適時設ける。また、ICTを用いた授業評価を行い、迅速なフィードバックをふまえた、より魅力ある授業改善が可能となるシステム作りを行う。	A	○計画的な研修が行われることで、教師の授業力の向上につなげ、北筑高校の魅力の一つとしてほしい。
			授業アンケートの結果をふまえて、適切な授業改善方法を提示する。その際、評価の在り方についても研究し、授業の質の向上を図る。	A					
		職員研修の充実	ICTの活用に関する研修を各学期に実施し、効果的な活用方法の研究と情報共有を図る。	A					
			各分掌や学年と連携し、必要な時期に適切な研修が行えるように計画を立てる。	A					
	情報教育班	ICT機器を活用した指導のさらなる促進および機器の点検・管理の徹底	ICT機器やICT教材を活用し、主体的・対話的で深い学びをより推進する。	B	A	A	1人1台タブレットを活用した授業のスタイルを多くの教科で出来るように、教師間で情報交換が出来る場を設けたり、教材等の情報提供を適宜行う。 1人1台のタブレットの導入で今まで以上に機器管理のルールを理解して頂き、全職員で管理や点検を行うようにする。	A	○継続的なICT活用による学習環境の整備を続けてほしい。
			ICT機器の適切な管理・点検およびその運用をきちんと行う。	A					
			1人1台タブレット端末を活かした新たな授業スタイルを構築できるようにする。	B					
			グーグルのClassroomを積極的に活用し、連絡の徹底や学習時間の確保などを図る。	A					
	英語科	学力と進路実現の保障	生徒との個人面談年3回以上は行い、進路実績を上げる。(国公立大15名以上)	B	B	B	英語科として進路実績目標を定め、それに向けて1年次から進路指導のロードマップを作成し指導していく。(進路研究会・講演・大学訪問等)英語科行事に関しては生徒が主体的に取り組むようにECGの活動を定期的に行う。また、各種コンテスト・コンクールにおいてもESSと連携した取り組みを行い上位への入賞を目指す。広報活動においては、今後も情報配信を随時行いアピールを行う。	A	○コロナ禍にあっても、学校行事を通じて生徒を鍛え、その力を伸ばすという北筑高校の伝統を継承して欲しい。 ○全国大会等の上位大会で活躍する生徒がさらに増えるよう、部活動の充実をお願いしたい。
			資格試験の合格者を1年英検準2級15名以上、2年2級25名以上、3年準1級5名以上、2級30名を達成する。	B					
		英語科行事の継承	英語科行事へ向けECO委員を中心に全学年の生徒で取り組む。	A					
			各種英語大会・コンテストで県大会3位以内の入賞を目指す。	C					
広報活動の充実		出前授業・中学校訪問・英語科説明会を通してPRを行う。	A						
		HPの定期的な更新(学期1回以上)・英語科通信(学期1回)を発行する。	B						
1学年	基本的生活習慣の確立	常日頃から、時・場所・場合をわきまえた挨拶・服装について考える機会を与えることで、生徒が場に応じて適切に振る舞える力を養う。	B	B	B	端正な身なり、私物管理、また計画的な学習について生徒が自ら考えて行動するための仕掛けを更に増やしていく必要がある。教員からの一方的な投げかけだけではなく、課題解決に向けて、生徒間で高め合っているような雰囲気作りの醸成を目指し、それに向けた取り組みを年度当初から行っていた。また、次年度も「人の気持ちを大事にする」というテーマのもと、一人の大人として立派に育てていきたい。	A	○昨年同様、北筑高校の伝統である英彦山研修などが行われていないが、北筑高校の文化を継続し、北筑生として、成長していると感じられる。	
		端正な身なり・私物管理・清掃活動を徹底して指導することで、折目正しく学校生活を送る習慣を養う。	B						
	学習習慣の確立	モニターシートを活用し、日々の学習活動を自ら可視化することで、予習・授業・復習といった学習のサイクルを立てる力を養う。	C						
		ICTを最大限に活用した授業デザインを行い、生徒の学習意欲を刺激し続けることで、自己実現に見合った教科学力を育成する。	A						
学校生活の充実とサポート	部活動や学校行事等に積極的に参加し、集団の中で様々な役割を経験することを通して、生徒の自主性・主体性を育む。	B							
	個人面談を各学期に1回以上実施する。各種アンケートや保健室利用記録を活用し、生徒の心の不調にいち早く気づける体制を整える。	A							
2学年	主体的に学習するための細やかなアドバイスを通して、学習習慣の確立を図る。	各教科で参考書の読み方や、空き時間時間の使い方を指導し実践することで主体的に理解しようとする姿勢を育成する。	B	B	B	最終学年として、学校行事を引っ張るリーダーの育成と、進路実現に向けて努力する生徒の育成に尽力する。リーダーの育成については集会毎に思いを伝える場を提供すること、理想のリーダー像を提示することを行いたい。進路実現については、学習方法のモデルを示すこと、空き間の時間を学習に充てる習慣をつけることを実践する。一人で机に向かい学習したり、振り返りする時間を多くとることが必要だと考える。	A	○竹陵祭や修学旅行など、新しい生活様式や進路指導の視点で、教師・生徒が協力し、実施している。次年度は進路目標達成に向け、教育活動を継続してほしい。	
		モニターシートを活用し1週間・1ヶ月と長期的に学習時間を把握させ、自己の行動の改善に役立たせる。	C						
		入試に関する情報を早期から収集させ、進路実現に向けた見通しを立てさせる。	B						
	学校の中心としてふさわしい人間力を培うために基本的生活習慣の確立を図る。	澁刺とした挨拶の励行を教員・生徒が一体となって行い、活気溢れる学校にする。	A						
		学校行事や学年行事を通して協働する楽しさを体験させることで、学校に気持ちを向かせる。(体調を整え、出席にこだわる。)	B						
		基本的生活習慣の確立のために、手帳やモニターシートを活用し計画的に行動する力を養わせる。	C						
学校生活が充実するようサポートする。	リーダー育成のために集会や行事で役割を与える。振る舞いについて事前・事後指導を行い、生徒の人間力育成の一助とする。	A							
	個人面談を定期的実施し生徒の状況把握に努め、教員間で情報を共有する。(生徒と教員の良好な関係を築く)	A							
3学年	北筑高校の最上級生としての自覚と誇りの涵養	「時を守り、場を清め、礼を尊ぶ」を徹底し、下級生に北筑生としての範を示すことができるように、HRや学年集会で意識喚起・啓発を行う。	B	A	A	最上級生として、北筑生としてあるべき姿を示すことを生徒に求め、行動を促した。多くの生徒が望ましい行動を取ることができたが、時間に余裕を持って行動できていない点が見られた。 学校行事の竹陵祭や大運動会ではリーダーシップを発揮し、行事を通して成長することができたと感じる。次年度以降も学習に、学校行事に、部活動に、清掃活動に熱心に取り組むことができる生徒を育成することで、現代に生きる逞しい人間の育成を目指していきたい。	A	○北筑生として進路実現に向けて努力を行い、下級生の模範となっている。運動会などの学校行事をコロナ禍で中断／縮小をした行事を新たな形で創造し、実践している。	
		生徒会執行部や学年リーダーが主体的に行動し、生徒集団を統率し、他と協働する喜びを実感させる。	A						
		身の回りの整理や掃除に取り組むことで、生活指導を基盤とした「北筑生」らしさを追求させる。	A						
	学校生活の充実とサポート	学校行事を通して、他者への配慮や周囲への感謝の気持ちを持たせ、個人と集団の成長を図る。	A						
		各種アンケートから生徒の状況を的確に把握し、生徒の課題に対して速やかに対応する。	A						
		生徒一人一人に応じた高い目標を持たせ、その実現のために「すべきこと」に気づかせ実践させることで、進路実現を達成させる。	A						
進路目標実現のサポート	模擬試験毎に目標を設定させ、振り返りを重点的に取り組ませたい。「なぜ解けたのか」を積み重ねさせる。	B							
	自学自習の環境を整え、主体的な学習を促し、多様な入試に対応できるようにする。	B							
	収入・学事・人件費事務領域業務の適法・適正な執行に努める。	A							
事務部	法規等に基づき本校教育目標に即した事務処理に努めるとともに、効果的で、効果的な予算執行を目指し、特色ある教育環境整備の充実を図る。	予算の効率的執行に努め、厳しい財政状況の中でも、教育活動を活性化させるため、物品等の購入を今後も効果的に行う。	B	A	A	光熱水費、特に電気料金が契約上、約2.2倍となる見込みであり、県費予算のあらゆる部門での節約・節減が必要となる。特にコピー用紙の購入については学校全体の協力が不可欠となるため、毎月の使用料等の情報を随時提供し、節減につなげたい。	A	○適切に処理をされている。	
		効果的な安全管理・環境整備の実現に向け、職員間で情報共有を行い、予算獲得をはじめ、速やかな対応ができるように努める。	A						
		収入・学事・人件費事務領域業務の適法・適正な執行に努める。	A						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新学習指導要領に基づく教育活動を推進するため、観点別評価等評価方法の改善や、ICTの利活用をさらに進め、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を推進する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行いながらも、新しい学校教育の在り方について引き続き検討し、自ら課題を設定し、計画的にその解決に向け取り組む生徒の育成を行う。
- ・来年度もSC、ICT支援員、校務支援員と適宜情報交換を行い、学校全体で組織的に、生徒の抱える問題の解決へ向けに取り組んでいく。

評価項目以外のものに関する意見

「現代に生きる逞しい人間の育成」という、本校創立以来の理念の実現に向けて、先生方には今後も御指導をお願いしたい。